

本草圖譜

芳草部

八

本草圖譜卷之八目錄

芳草類 三

瑞香ぎょうかう

ぢんとうけ

二

一種

白物

一種

金邊瑞香きんぺんぎょうかう

一種

黃瑞香きょうぎょうかう

三

一種

ねふあざり

茉莉まうり

まうらんまうらん

四

一種

千辨せんべんの物

素馨そけい

一種

黃素馨きょうそけい

鬱金香うこんかう

一種

六

一種

七

一種

木本の物

七

茅香

かうむらう

八

排草香

かへらう

一種

白花

九

迷迭香

まんねらう

藿香

舶来の物

十

同

新渡の物

薰草零陵香

えんさう

十一

一種

金鈴花

十二

一種

銀鈴花

十三

蘭草

ふたむらま

山蘭

ひよごうさう

十四

本草圖譜卷之八

東都

岩崎常平著

芳草類 三

二十四種

瑞香すいかう

ぢんとけ

人家庭際に栽ウ小本高さ三四尺に過ず四時凋ツむ葉ハ冬モト青ノキに似て
厚く正月花あり四瓣ゲンタウ花に似て厚く大に外紅紫色内淡紅色
香氣強



一種 白花の物

白花ゆて紅雲を綴ぶ
味辛一故は誤て胡椒の
木と呼ぶ毒あり食ふ
べからず時珍云有黄白
紫三種と其白きものあり

きんぎょく
金邊瑞香

秘傳
花鏡

葉の周り

黄色るる

ゆわく

とらふ

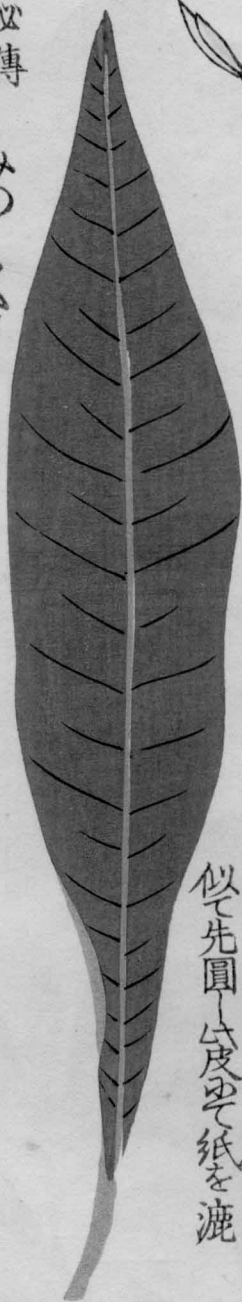


一種

黄瑞香（ミツマコ）

花秘傳

みつまこ



駿州より多く栽高さ七八
尺枝幹瑞香に似て必三
冬を過る冬月花房を
白色下垂す春に至て
開くとより四瓣黄色香
あり三月生ず桃葉
似て先圓は皮を紙を漉

一種

松ふさぎ

竹林中

あじふ

多し

大戟に似て小木なり冬月枝
開ふ花あり形丁香に似る更
なる丁と云ふ淡黄色夏葉は
紅色の實を結ぶ枸杞子コウシに似て
圓味辛く毒あり

花



茉莉モリ

まうはん台

薩川

琉球より来る今多し小本
あり葉圓して淡緑色對生
夏秋の間白花を開くツナミ花は
似てよく香氣あり

ヤスミユム サムグ 羅甸

千瓣の物ハ葉
圓く小くまゝあり
花十餘瓣あり



素馨そがい附錄

ヤスミニユ オドリチツシニユ 羅甸



琉球種文政年中江戸
来る小木ゆて枝細く蔓の
如く蔓迎春花に似て薄
莖五葉あり對生に夏より
秋まで葉の間は五瓣の白花
を開く形梔子花に似て小く
香氣茉莉より烈く實ハ

竹米タケノミは似て黒色種くろくはく
生なげ寒と恐る冬ふゆの密中みちに藏

すべし正字通ナニシイ茗字の註ナニシイ今

廣州素馨花ナニシイ或作那悉茗

段成式又曰ナニシイ悉

蜜出拂林波斯ナニシイ

花五出白色不

結實ナニシイとナニシイ是

字用格按

ずナニシイ那悉茗野ナニシイ蜜共ナニシイ和蘭名

又ナニシイ又ナニシイの音を譯ナニシイ者ナニシイる

一種 琉球ナニシイこナニシイる

俗は木香花と呼ふ琉球ナニシイより来ると云枝幹ハ

素馨ナニシイは似て夏月花簇生す其形迎春花ハ

似て花瓣ナニシイより黄色香氣ナニシイ盛ナニシイ通志ハ

探春花と云是ナニシイあり明の灌園草木識ナニシイ黄素馨

終年有花頗似京師黃迎春亦以花形似素

馨得名殊無ナニシイ也と云



ヤスミニユム ヒュミレ 羅甸

鬱金香

荷蘭ウエイシンの圖る

花色品類甚多一其中

二三品をこゝに寫す時珍の

説に唐書云太宗時毘

国獻鬱金香葉似麥

門冬九月花開狀似芙

蓉其色紫碧香聞數

十歩花而不實と云是

あり又

魏畧

云生大

秦國

三月

有花狀如紅

藍罍五月採

花即香

千屈菜
蘭荷を



宇田川榕按
おふてりぱ

和蘭佛蘭西

等の花園は

養ふてりぱ

羅甸の名も

和蘭おてり

ルと呼ぶ

圓く中ふ軟髓ありさ尺許根より二三葉

生は葉闊く厚く邊は波紋あり先尖る莖

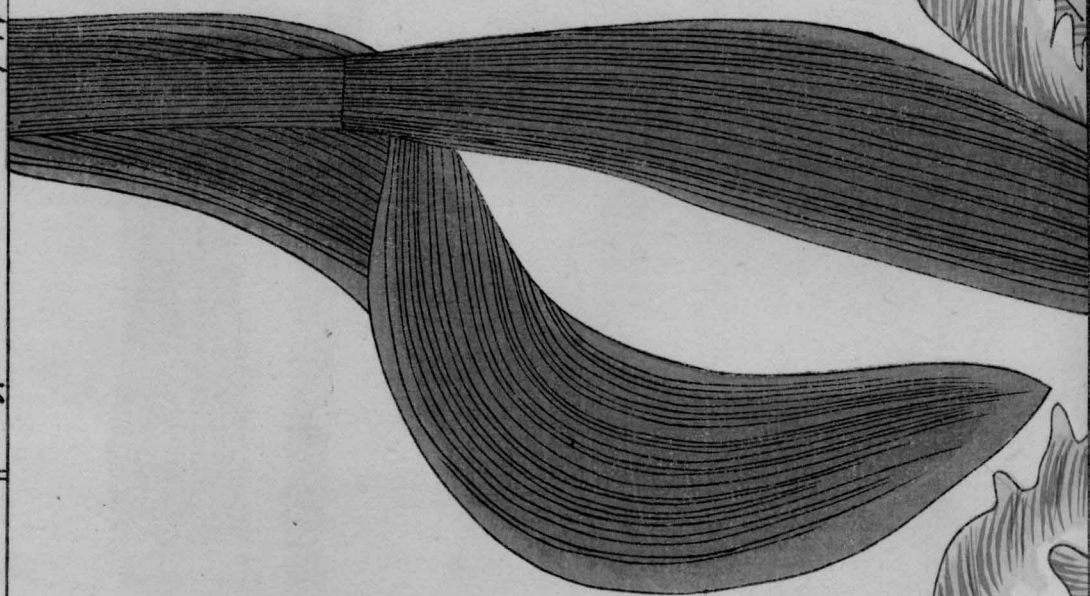
頭は六瓣の大花を放し花形一様なり

色も亦紅紫黄白其他雜色あり香し花

後三稜の実を結ぶ内は三室あり室中ふ

種子えつ種子は赤くして圓く扁く根は

球めて色黄或黒し



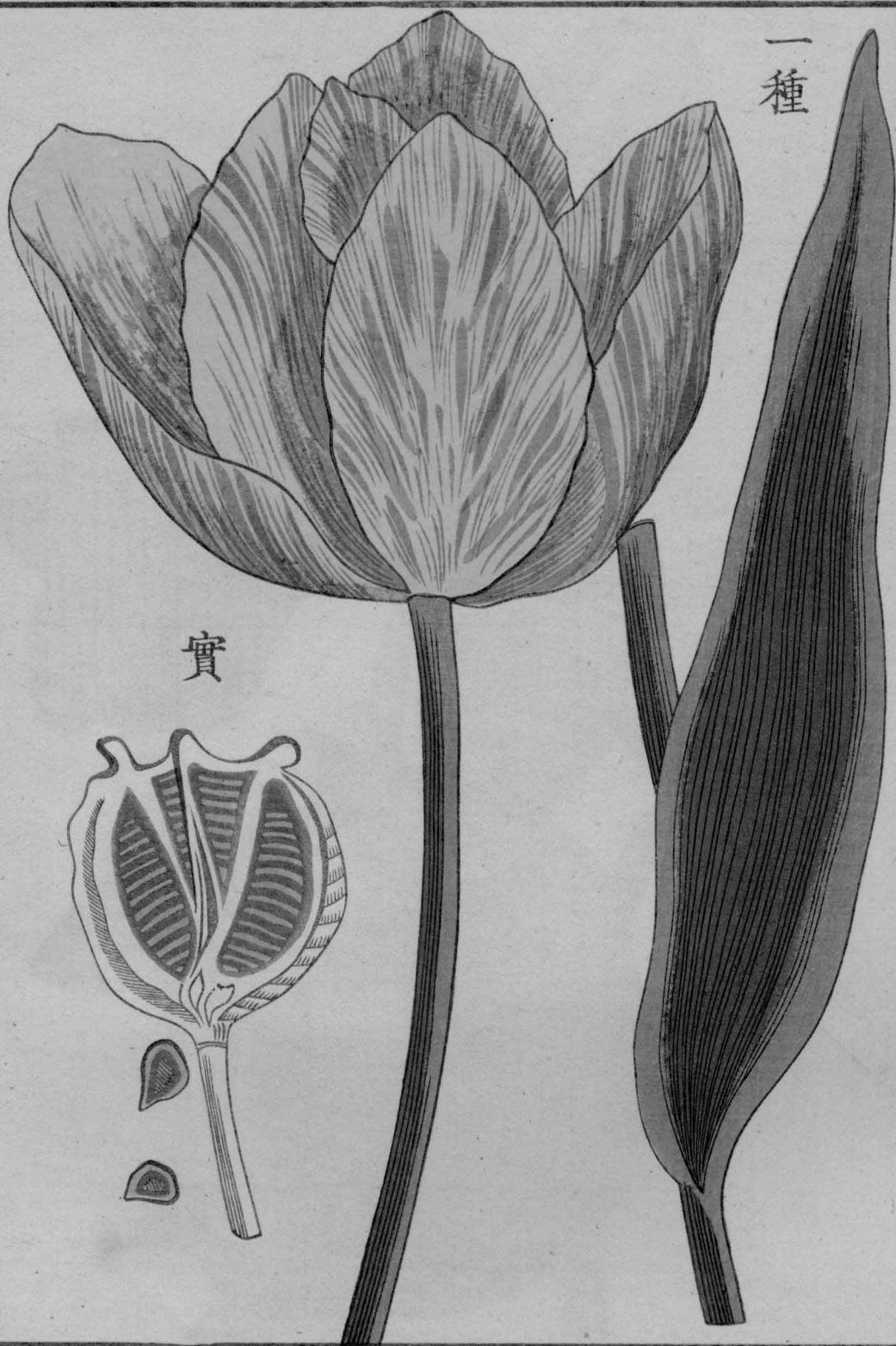
一種



本草圖譜

卷之八

一種



實

一種

木^き本^{ぼん}の物



荷蘭王イン

マン載る樹の

鬱金香多う奈須恒德按よ阿毗達磨俱舍論第十三卷音義よ鬱金
是樹名出罽賓国其花黄色聚花安置一處待爛壓取汁以物和之
為香花粕猶有香氣亦用為香也ト云ハ此物ナリ